

「2050年の防災・減災」未来予想図

資料 1

気候変動や巨大災害リスクなどやるべき問題はますます増えていく反面、自助・共助・公助は縮小し、予防力も対応力も先細っていく未来が待ち受けている。

誰しものがなんとなく感じている時代の変化

1. 急激な少子高齢化と地域社会の担い手変容

少子高齢化→ 自助の限界+共助の機能不全

対応力↓

2. 逼迫する自治体財政

経済成長の停滞→財政悪化→何もできない公助

予防力↓

3. 低成長と市街地更新力の低下

開発圧力を前提とした建物・市街地における防災力強化の限界

災害像と求められる安全水準の変化

4. 多様化する災害ニーズ

多様な災害対応ニーズに対応する必要性が叫ばれるが、本当に重要？

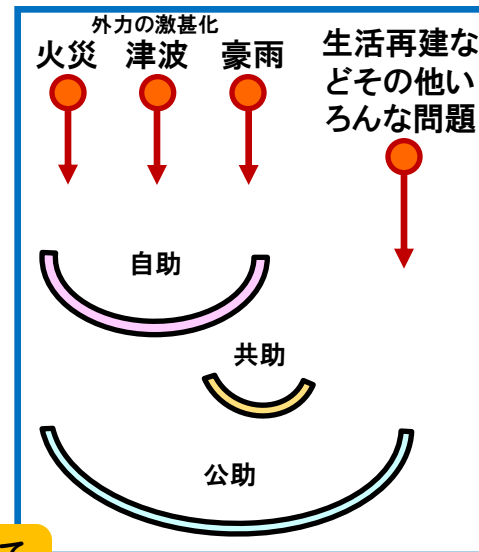
やるべきこと↑

5. 災害リスクの量的・質的変容

災害現象の2極化に伴う、最後の5%対策と低頻度高被害型災害への対処

ソフトへの丸投げ

問題のピンポン玉をコップで受け止めるイメージ



これからの防災方針

大前提：予防力を高める！（資源が残っているうちに「事前防災、特に予防力強化を」）

① 優先順位を絞り込みメリハリのきいた災害対策（やるべきことを絞り、選択と集中を。死者低減が最優先）

全てをやる必要はない。ゼロリスクを求めすぎず、優先順位をつける。※在宅避難、避難所運営や帰宅困難などの対応は民の力で+それを可能にする行政の事前支援

② 都市の縮退とこれにあわせた長期的な曝露量低減（予防力の強化）

曝露量の低減を実現する「予防」を。ただし、極端な選択に陥らないよう、生活をイメージしながら多様な手段を容認する。

③ 中長期を見据えた地域防災力の向上（予防力（一部対応力）の強化）

災害意識や教訓の積み上げ（小規模災害をきちんと復習しつつ、それに縛られ過ぎず）、ソフトの限界を認識して中長期的戦略を

④ 未経験や理解しにくい「あらゆるリスク」に対応できる研究開発（対応力の強化）

想定外や複合災害は予防力に限界。科学技術、災害教訓の蓄積を前提とした災害対応力向上および災害イメージ構築の技術。

⑤ 空間・時間・目標に冗長性を確保する（対応力の強化）

道路空間（コロナ）、空き家、空地、遊休施設、スポンジ等の有効活用やフェイズフリーとトランスフォーメーション。

⑥ 「転換力」を高めて、都市のレジリエンスを向上させる（転換力の強化）

予防力でもない、対応力でもない、もうひとつの力。事前復興や将来ビジョンの事前検討。変化に対応する能力を高める。